

水都大阪再発見クルーズ ③

水都大阪～文学で川を巡る～

はじめに

江戸時代に開発された中之島は、現在に至るまで、その性格を変化させながらも、大阪の中心的な役割を果たしてきました。そのため、小説やエッセイなどでは、各時代における特徴的な中之島の姿が描かれています。作品の朗読を交えながら、文学に描かれた中之島を案内します。

おわりに

いかがでしたでしょうか。同じ中之島でも、時代によって随分と異なった姿に描かれています。土佐堀川も、ボート遊びなどの夕涼みの場所であるかと思えば、ヘドロやゴミの臭気がただよう川として描かれる時代もありました。現在の中之島はどのような姿に描かれるのでしょうか。

監修：高島幸次（大阪大学招聘教授）

財団法人大阪21世紀協会